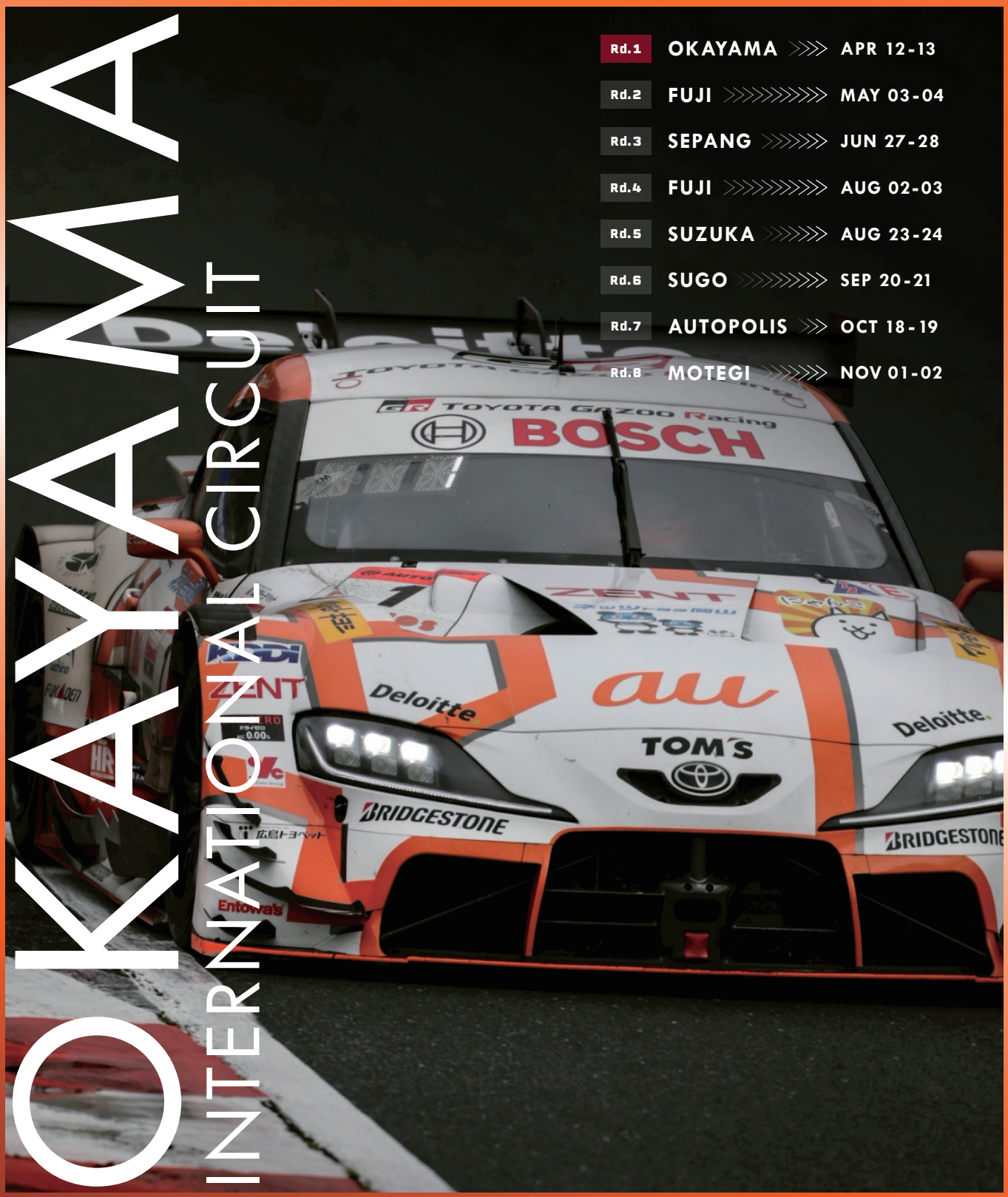
2025

SUPER GT
RACE REPORT

Rd.1 4.12 [sat] - 13 [sun]

[place] 岡山国際サーキット（岡山県美作市）
[weather] sat 晴れのち曇り／ sun 雨のち曇り
[spectators] 23,200人（sat 8,700人／ sun 14,500人）

OKAYAMA INTERNATIONAL CIRCUIT



Rd.1	OKAYAMA	APR 12-13
Rd.2	FUJI	MAY 03-04
Rd.3	SEPANG	JUN 27-28
Rd.4	FUJI	AUG 02-03
Rd.5	SUZUKA	AUG 23-24
Rd.6	SUGO	SEP 20-21
Rd.7	AUTOPOLIS	OCT 18-19
Rd.8	MOTEGI	NOV 01-02

TOM'S

AUTOBACS SUPER GT 2025 SERIES

TOM'S

予選ではポールポジションを逃すも、決勝では王者らしい強さでライバルを圧倒。3連覇に向け、シーズン開幕戦で優勝を飾る。

2025 AUTOBACS SUPER GT Round1 OKAYAMA GT 300㎞ RACE が、4月12日（土）、13日（日）に岡山県の岡山国際サーキットで行われた。前人未到の3年連続チャンピオンを狙う #1 au TOM'S GR Supra（坪井翔 / 山下健太）は、予選でライバルの先行を許して2番手に終わるも、決勝ではレース序盤にトップを奪い、その後も安定した走りで他を圧倒し、シーズン初戦を制した。

1 TGR TEAM au TOM'S

SHO TSUBOI 坪井 翔

KENTA YAMASHITA 山下 健太

Rd.1 Result

Qualifying	2位	Driver Standings	1位
Race	1位	Team Standings	1位

Qualifying 1	山下：P1 ／ 1'17.157
Qualifying 2	坪井：P2 ／ 1'16.516 ≪ Record
Race ファステストラップタイム	坪井：1'28.314
	山下：1'19.845 ≪≪ Fastest

TOM'S

QUALIFYING

天候：晴れのち曇り／気温：15℃／路面温度：23℃

ゼッケン1をつけて臨む2025年 僅差でポールポジションを逃すも、決勝に向けて手応え感じる。

昨シーズンは 3 勝を挙げる活躍でチャンピオンに輝いた 1 号車。2025年も坪井と山下のコンビは変わらず、チーム 3 連覇を目指して戦っていく。3 月に行われた公式テストでは天候に恵まれずドライコンディションでのテストが十分にできなかったが、晴天となった予選日では公式練習から積極的に走り込み、マシンとタイヤの確認作業を行ったなか、坪井が 1 分 17 秒 278 でトップタイムを記録し、順当なスタートを切った。

今年の予選はノックアウト方式に戻り、Q1 の上位 10 台が Q2 へ進出し、ポールポジションをかけて争う。1 号車は山下が Q1 を担当して 1 分 17 秒 157 でトップ通過を果たすと、続く Q2 では坪井がタイムアタックを実施。コースレコードを塗り替える 1 分 16 秒 516 をマーク。ポールポジションは確実かと思われたが、その後ろを走っていたライバルに 0.075 秒逆転され最終的に 2 番手で終わった。トップを狙っていただけに 2 人とも悔しい表情をみせていたが、決勝での逆転に自信をみせていた。

Race

天候：雨のち曇り／気温：13℃／路面温度：15℃

雨の影響で波乱の展開となるも 1 号車は序盤からトップに浮上。王者らしい力強い走りで優勝を飾る。

決勝日は一転して朝から雨が降り続け、ウエットコンディションでのレースとなった。安全を考慮してセーフティカーの先導のもとスタートされたが、追い越し禁止が解除された直後に後方で複数台が絡むアクシデントが発生して赤旗中断となった。

30 分の中断を経て再開されると、スタート担当の坪井が 11 周目にライバルを抜いてトップに浮上。その後も安定したペースで周回を重ねた。後半に入った 52 周目にピットインし山下に交代すると、終盤になって天候が回復したこともあり 63 周目にドライタイヤに交換。チームもミスなく 1 号車を送り出し、後続との差を順調に広げていた。

そのまま優勝まで走り切るのみだったが、残り 15 周のところでコースオフ車両が発生したことでセーフティカーが導入され、それまで築いていた約 20 秒のリードがリセットされた。それでも、残り 9 周で再開されると山下がファステストラップを更新する勢いでライバルを圧倒し、シーズン開幕戦を制するトップチェッカーを受けた。

TOM'S

予選は悔しかったですが、決勝でライバルを引き離せて嬉しい。

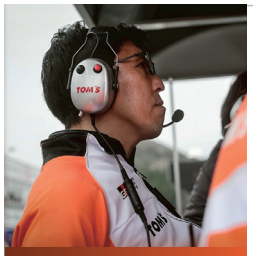
ドライバー　坪井　翔

予選でポールポジションを獲れなかったのはものすごく悔しいです。僕たちは手堅く２周連続でタイムアタックをしましたが、1周だけに絞るなど、バリエーションがあったかもしれませんし、もう少し自分の走りでまとめられたこともあったと思います。とはいえ、決勝ではどんなコンディションになっても１号車は強いという自信がありました。ウェットコンディションになればチャンスがさらにあると思っていたので、序盤にライバルを抜くことができました。そこからは 10 秒以上引き離すことができ、タイヤマネジメントもしながらうまくできたと思います。

決勝は落ち着いて走ることができ、全体的に完璧なレースだったと思います。

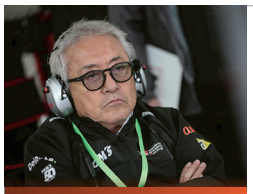
ドライバー　山下 健太

予選では自分が Q1 を担当しました。タイムアタックする周回数を絞るなど、もう少し坪井選手に伝えられていれば良かったと思うところはあります。自分のアタックも含めて、もう少しうまくやれていればトップを獲れた可能性があったと思います。決勝では坪井選手が 10 秒引き離した状態で僕に渡してくれたので、落ち着いて臨むことができました。終盤にセーフティカーが入り仕切り直しになりましたが、しっかり集中して走ることができました。全体的に完璧なレースだったと思います。



チーム監督　伊藤 大輔

予選は非常に惜しかったです。ポールポジションを獲りたかったですけど、開幕戦をきちんと最前列からスタートできることを考えれば、全体の中では良いスタートだと思います。
決勝はコンディションが変わっていく難しいレースでした。そのなかで自分たちのプランを突き通すのか、周りの動きに合わせるのかで悩む場面はありましたけど、結果的に上手くできた完璧なレースだったと思います。それ以上にドライバー２人がミスなくスピードのある走りをしてくれましたし、２回ピットストップがあったなかでチームも素早く作業ができました。



チームオーナー 舘　信秀

３連覇を狙うシーズン開幕戦で盤石なレースをみせてくれました。予選でポールポジションを獲得できなかったことは残念でしたけど、決勝は本当に強くて良いレースでした。幸先の良いスタートを切ることができたと思います。最後のセーフティカーで展開が色々と変わりましたが、今回は 37 号車も力強い走りを見せてくれたので、今シーズンはこの２台でワンツーフィニッシュを達成できればと思います。
次戦も、たくさんの応援をよろしくお願いいたします。

au
KDDI
マッキナヨシ
ZENT
GR TOYOTA GAZOO Racing
TGR-DC TGR Driver Challenge Program
TGR-D
BRIDGESTONE
Entowa's NUSH
DRY ZERO ドライゼロ ALC.0.00%
Yi-Chiu Group
バンテリン
Happiness in Your Life 広島トヨペット
Deloitte.
MASEKI GEINOSHA
Achilles
TAMIYA
XREX
豊通テック
Valenti
uchino
bryza
HTECH RESIN
EDIFICE CASIO
JAPAN TRUCK SHOW 2026
BRIDE
FUKUDEN
S&D TAMA GROUP
HRX
PARTS.CO.JP
ThreeBond
Mizuno
ENKEI
both. SOUP
KYOVA
MECHANIC WEAR